

区分・種別	史跡		
名 称	やわたはまかいどう かさぎとうげごえ ・ よるひるとうげごえ 八幡浜街道 笠置峠越 ・ 夜昼峠越		
所 在 地	八幡浜市 ^{かまのくら} 釜倉、西予市宇和町岩木・八幡浜市川之内、大洲市平野町野田		
所 有 者	八幡浜市、西予市、大洲市、個人	管 理 団 体	八幡浜市・西予市
指定年月日	平成29年10月13日・令和5年3月20日		



笠置峠越 街道に残る石畳



夜昼峠越 街道に残る石積（大洲市提供）



夜昼峠越 八幡浜市側全景（八幡浜市提供）

解説は次ページ

【笠置峠越】

西予市宇和町卯之町と八幡浜を繋ぐ八幡浜街道の一部で、西予市宇和町岩木と八幡浜市釜倉の間にある標高 397m の笠置峠を越える道である。南麓の安養寺が所蔵する大般若經奥書から、室町時代には峠を越えての交流があったことが窺える。また、宇和島藩主伊達家の記録や小原村（西予市宇和町小原）の庄屋清家家日記から、3代藩主宗賛が元禄 14 年（1701）にこの道を使って下向しており、以後、歴代の藩主が参勤交代に利用する道のひとつであったことがわかる。

峠に立つ地藏尊（寛政 6 年〈1794〉造立）の台座には、「あげいし」（四国八十八ヶ所霊場第 43 番札所明石寺、西予市宇和町所在）などへの道程が追刻されており、西予市側の道端に残る遍路墓の存在からも、この道筋が九州方面からの巡礼者と四国遍路を結ぶ道として機能していたことがわかる。道筋は林道の敷設により改変されている箇所があるものの、西予市側約 0.5 km、八幡浜市側約 1.1 km の区間に、道幅が 1～2 m 程の地道が良好に遺存する箇所がある。参勤交代の道として、また、九州方面からの巡礼者と四国遍路を結ぶ道として、遺存状況の良好な箇所を指定する。

【夜昼峠越】

大洲市と八幡浜市を繋ぐ八幡浜街道の一部で、標高約 318m の夜昼峠を越える道である。参勤交代の道ではないため史料は乏しいものの、宇和島藩の伊達家文書の遍路統制に関する記述から九州方面からの巡礼者の通行実態を窺い知ることができる。文書によると明和 6 年（1769）の法令では、宇和島藩領への九州方面の出入口は三机湾（伊方町）に限られており、伊予北部に向かう遍路は夜昼峠の北西に位置する横野峠越え大洲藩領へ入っていた。第 43 番札所明石寺（西予市宇和町）や土佐方面を目指す遍路は、笠置峠を越えて卯之町（西予市）へ出るように指示されていたとされる。その後、寛政 12 年（1800）の法令で遍路や商人の八幡浜浦への上陸が認められるようになると、夜昼峠を越え、大洲城下を経由して第 44 番札所大寶寺（久万高原町菅生）へ向かう遍路道が確立したとされる。

夜昼峠越の道は、大洲市側には九州から来た遍路の墓（享和 2 年〈1802〉）があり、八幡浜市の旧川之内小学校横には「へんろ道」と刻まれた江戸期の道標が所在していることなどからも、この道筋が九州方面からの巡礼者と四国遍路を結ぶ道として機能していたことがわかる。道筋は旧府県道（現市道）の敷設等により改変を受けている箇所があるものの、大洲市側 947.59m、八幡浜側 930.94m の区間（計 1,878.53m）に地道が良好に遺存する箇所や古道の在り方やその変遷を伝える箇所がある。商港八幡浜と城下町大洲を結ぶ主要道、また、九州方面からの巡礼者と四国遍路を結ぶ道として、遺存状況の良好な箇所を指定する。